



平成24年度の「情報セキュリティ月間」に 向けての課題等

平成24年度情報セキュリティ月間に向けて

平成23年度「情報セキュリティ月間」の実施結果を踏まえ、必要に応じて見直しを行い、より効果的なものとなるよう推進する

関連行事の開催

➡ 平成24年度も積極的に開催する

キックオフ、ハーフタイムイベント

●キックオフイベント (2/2)

情報セキュリティの現状と対策等に関するシンポジウム

214名が聴講、約29%の方が良かったと回答(アンケート回答率79%)

●ハーフタイムイベント (2/16)

標的型メール攻撃対策等についての車座集会(政府機関向け)

大規模サイバー攻撃事態等対処訓練

重要インフラ事業者がサイバー攻撃を受けたことを想定した、大規模サイバー攻撃事態等対処訓練を実施予定

全国ブロック別イベント

全国8ブロックにおいて各ブロックにおける基軸となる講演会等を開催

全国11の都府県で計13のイベントを開催。



その他官民による関連行事

様々な関連行事を集中的に開催

【主な行事】

- 情報セキュリティに関する講習等(都道府県警察) 小中高校等を対象に、サイバー犯罪の現状、検挙事例等を説明
- e-ネット安心講座(総務省、文部科学省等) 保護者等を対象とした子供たちをネットトラブルから守るための講座
- インターネット安全教室(経済産業省等) 家庭や学校におけるインターネット利用の基礎知識を学習

官民連携の推進

➡ さらに良いものにする方策を模索する

イベント協力

イベント共催、講師派遣等

11の民間イベントに審議官等を講師として派遣

バナー交換

月間用バナー、企業等バナーを相互のウェブサイトに掲載



情報セキュリティ月間
内閣官庁情報セキュリティセンター

各種媒体の活用

メールマガジン等において、相互の取組等を紹介

情報発信

➡ HPのアクセス数等の妥当性を検証し、見直しを行う

トップからのメッセージ

月間に関するトップメッセージを、記者会見、HPへの掲載を通じ周知



専用HPの更新

「国民を守る情報セキュリティサイト」に、初心者向けページを開設

セッション数:約3,900(1日平均)
※月間前:約400(1日平均)



SNS、メルマガの活用

メールマガジン、ソーシャルネットワーキングサービスを通じ各種情報を提供

メルマガ:2回発行(登録者数約5,400名)

ツイッター 22回ツイート(フォロワー約270名)



ポスター、バナー

月間周知用のポスター、バナーを作成、配布



ポスター:約6,500枚配布

国民を守る情報セキュリティサイト①

○ページ別アクセス数

トップページ以外では、月間ページ、初心者ページの順番でアクセスが多かった。また、全てのページに共通して、アクセスが集中する期間が3期間あった。

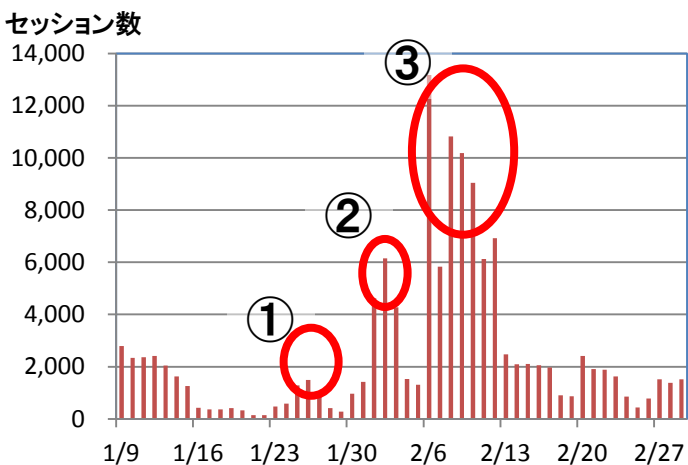


図1. セッション数推移(サイト総数)

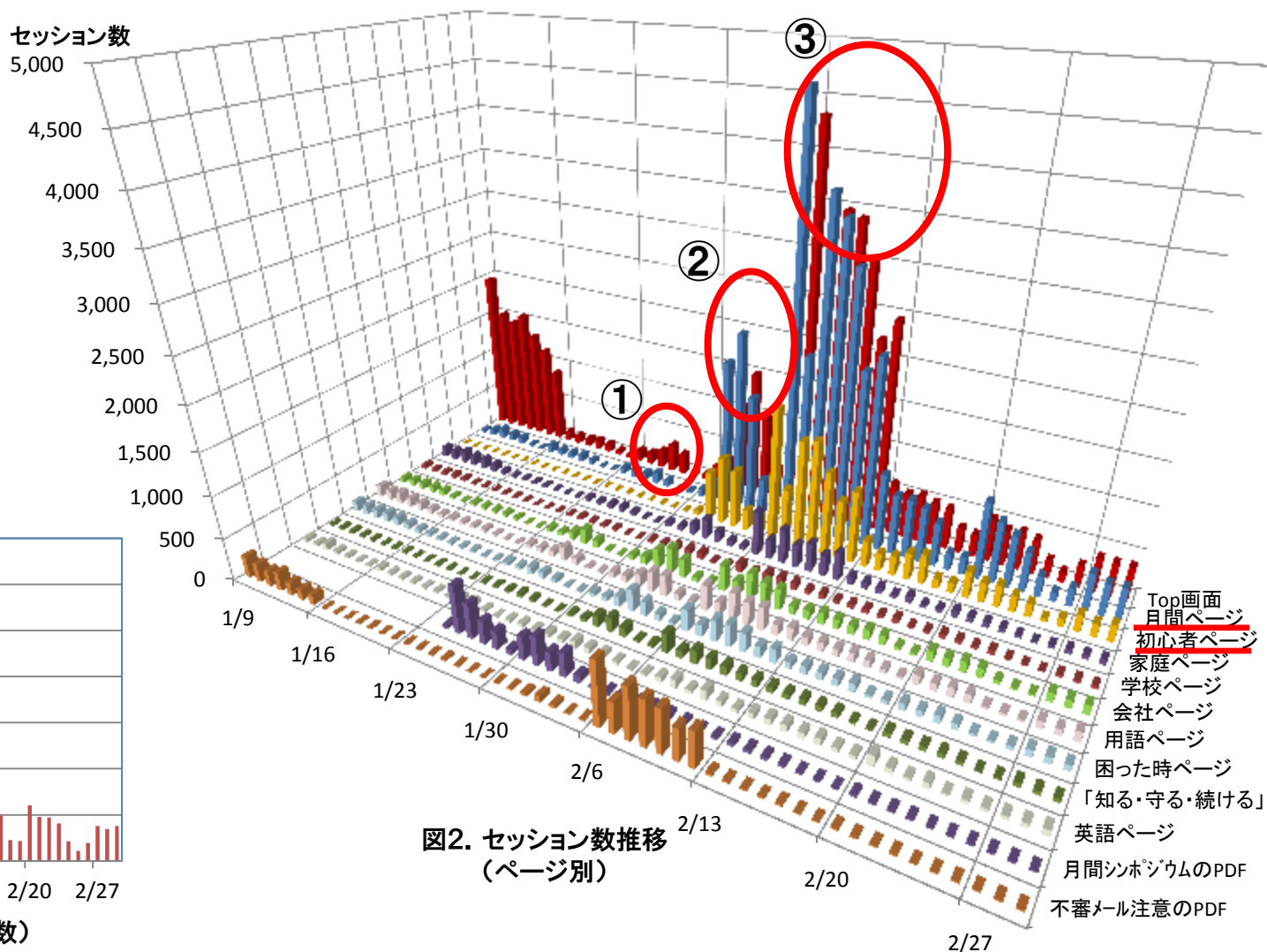


図2. セッション数推移(ページ別)

国民を守る情報セキュリティサイト②

○どこから訪問してきたか(参照元)
 特定のWebサイトからの接続が約半数を占めていた。

2012年

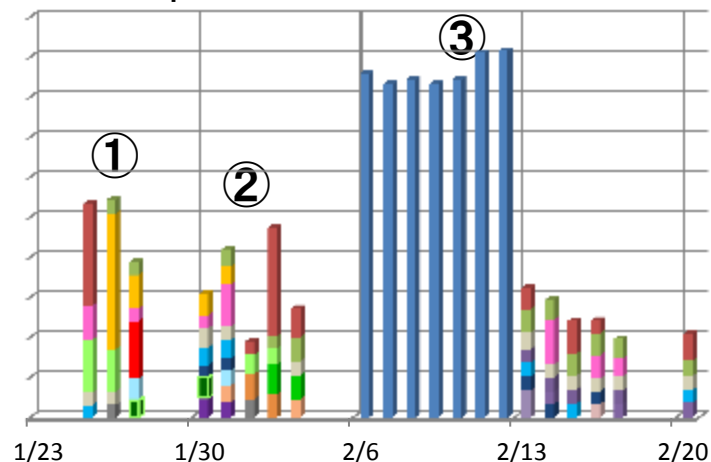


図5. 参照元比率(特徴ある箇所の抜粋 その1)

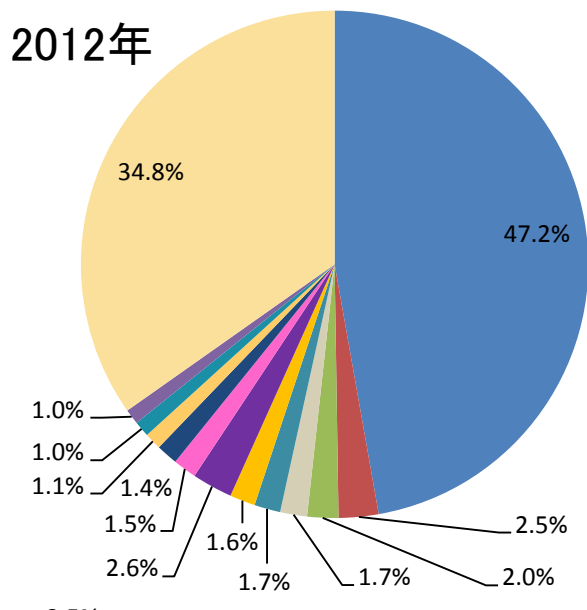


図3. 参照元比率
(2012年総数の比率)

2011年

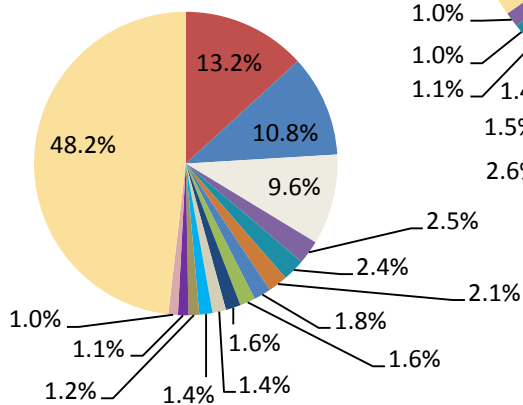


図4. 参照元比率
(2011年総数の比率)

2012年

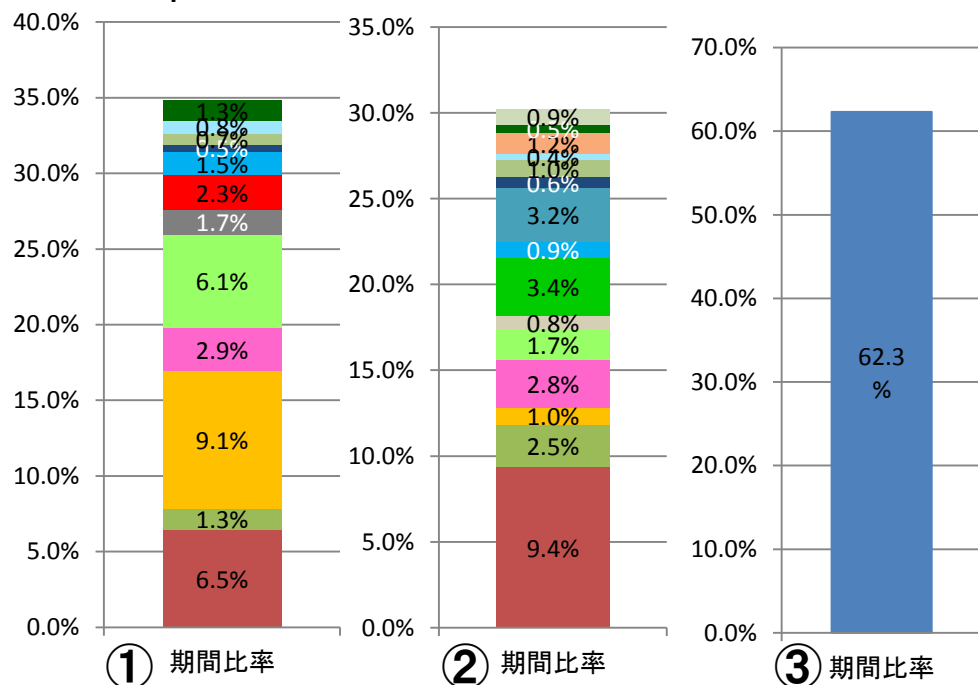


図6. 参照元比率(特徴ある箇所の抜粋 その2)

国民を守る情報セキュリティサイト③

○訪問者

訪問者の属性を推測するための手段として、送信元ドメインにより分類した。

ne.jpドメインが一番、次いでco.jpドメインが多く、一方が突出するような偏りは見られない。

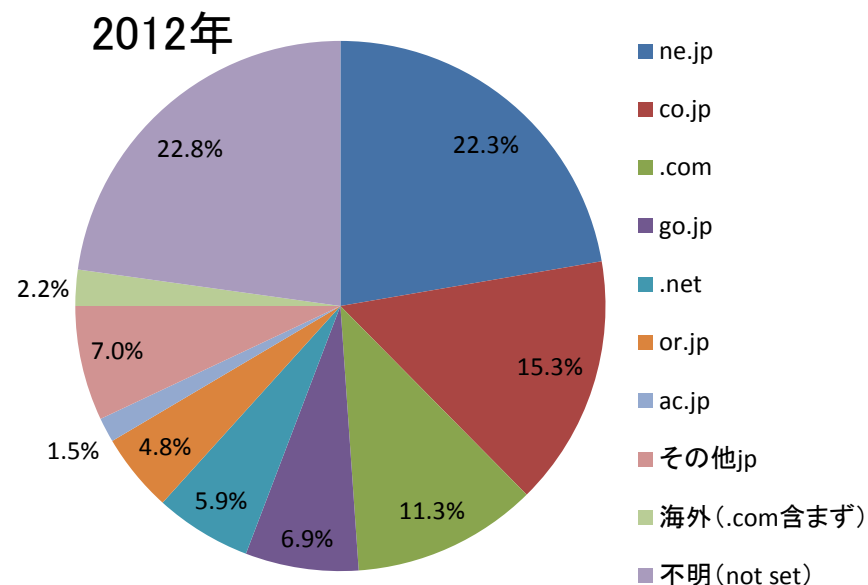


図7. 訪問者ドメイン比率
(2012年総数の比率)

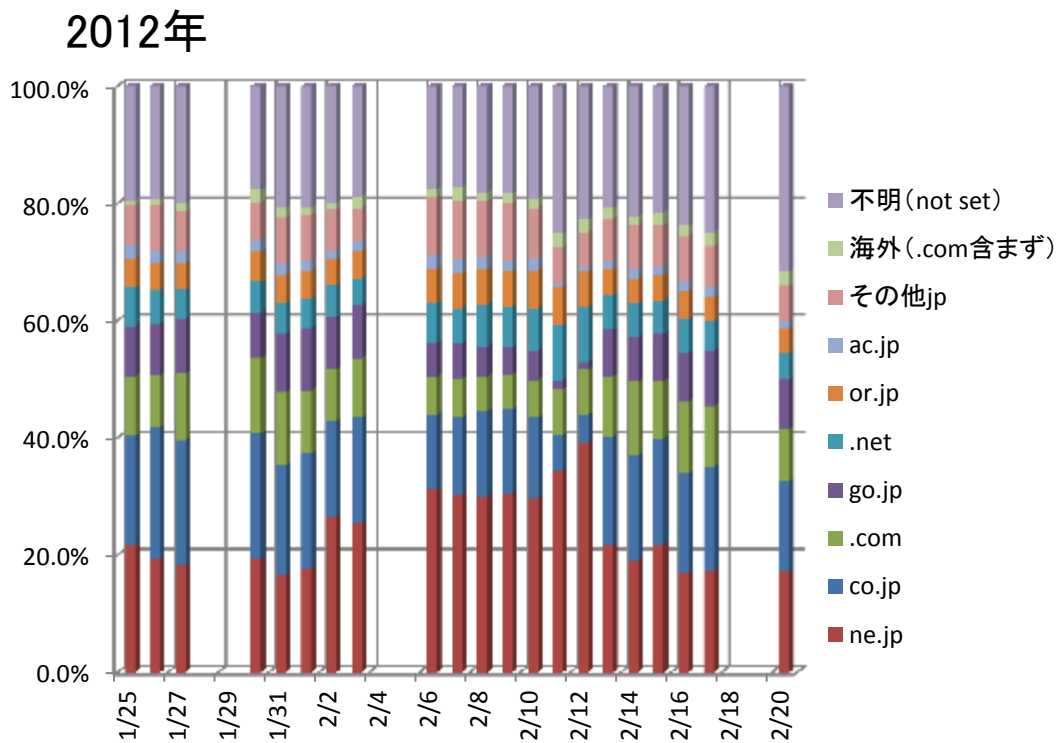


図9. 訪問者ドメイン比率
(2012年 特徴ある箇所の抜粋)

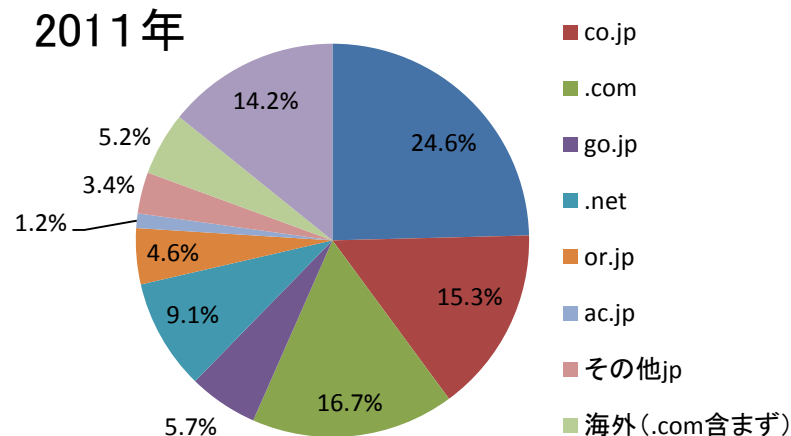


図8. 訪問者ドメイン比率
(2011年総数の比率)

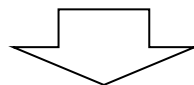
国民を守る情報セキュリティサイト④

[まとめ]

- 月間関連でアクセスが集中した3か所(①～③)は、その前後の活動と収集したデータを検証すると、それぞれ以下の理由によりアクセスが集中したと考えられる。
 - ① 1/24 情報セキュリティ月間の報道発表と、それらイベントに関する記事等のWebサイトへの掲載及びtwitterからの情報発信
 - ② 1/31 官房長官談話
2/2 情報セキュリティシンポジウム開催
これらに関する記事がWebサイト等に掲載されたこと
 - ③ 2/6～12 著名なWebサイトのトップへの記事の掲載
- 月間中、いかに話題性のある取組を実施し、継続的に情報発信していくか

- 当サイトへの訪問は、著名なWebサイト経由によるものが多い。本年は1つ、去年は3つのWebサイトを經由した訪問者が多かった。
→ いかに多くの著名なWebサイトに記事等を掲載してもらうか

- 訪問者の分類はne.jpドメインが一番、次いでco.jpドメインが多く、一方が突出するような偏りは見られない。ne.jpは、サービスプロバイダーに割り当てられた領域であり、概ね一般家庭からの訪問者が該当する。co.jpは、概ね企業からの訪問者が該当する。当サイトは家庭・企業双方をターゲットとしたサイトであるため、訪問者の比率は良好であると捉えている。



話題性のある取組の企画・発信及び著名なWebサイトへの掲載の働きかけを行うことが、サイトアクセス数を向上させ、ひいては情報セキュリティ月間全体の盛り上げりに貢献すると考える。

平成24年度情報セキュリティ月間において実施を検討すべき事項 (国民を守る情報セキュリティサイト以外の取組について)

○ 平成23年度情報セキュリティ月間の取組

- ・ターゲットを限定するか、カテゴリ分けするアプローチが指摘された

○ 平成24年度情報セキュリティ月間の取組の方向性

- ・啓発対象者の属性等を踏まえた取組を検討することにより、対象者に関心を持ってもらう

【万人向け】

- 幅広い層へリーチ可能な媒体の活用
(例)テレビ等マスメディアへの露出
- 子供からお年寄りまで親しめるマテリアルの募集や配布
(例)セキュリティ川柳の募集
(例)セキュリティ対策チェックシートの配布

【属性別向け】

- 特定層からの流行や波及効果を目的とした働きかけ
(例)動画サイトへの動画投稿
(例)特定層と関わりの深い組織(シニア向け講座、パソコン教室、NPO)と連携した情報発信
(例)ボランティア(学生ボランティア、企業ボランティア)と連携した学校等への講演 等

→具体的な取組については、目標、課題、解決方策等の検討結果を十分に踏まえたものとする

普及啓発の基本的な考え方

1 現状の把握・目標の設定

- 現象面(人の行動)は現在どのようになっているか、それをどう変えていくのか

2 問題の抽出

- 問題→①顕在化している障害、②目標達成のためのハードル

3 課題の抽出、ターゲットと具体的目標の設定

- 課題→①普及啓発により解決すべき解決可能な問題、②複数の問題の背後にある根本的な要因
- ターゲット→課題解決のためにコミュニケーションをとる相手はどのような者が適切か
- 具体的目標→選定課題について具体的にどのように状況に変えていくか

4 課題解決方策の検討

- 課題の原因となっているパーセプション(認識)とそれに基づく行動をいかに変えるか
- ターゲットのパーセプションを変えるためには何を伝えればよいか。
- そのためには、どのような手法が適切か
- その方策で、本当に目標が達成できるのか。

平成24年度情報セキュリティ月間の基本的な考え方①

1 現状の把握・目標の設定

目標

- 情報セキュリティに興味を持ってもらう
- 情報セキュリティの重要性を知ってもらい、適切な対策を実施してもらう

指標

- 指標を設定し、目標が達成されたか、良くなったか悪くなったかを観測する

(例)

- ・セキュリティ事故件数
- ・どういう対策をしているか
- ・意識の指標
 - － 不安を感じている程度
 - － 不安だから対策が必要だと感じる程度
 - － 必要と感じるから検索しようと思う程度
- ・行動の指標
 - － 実際に検索行動をしたか
 - － 調べた対策を導入したか

アンケート

2 問題の抽出

問題となる認識

- 言葉や概念が難しい
- 何をするのが正しいのか分からない
- セキュリティ対策のやり方、パソコンの使い方がわからない
(パスワードの変更のやり方がわからない、パッチの当て方がわからない)
- メーカーがちゃんとやってくれれば自分は何もしなくてもよいはずだ
- 自分には関係ない
- 仕組みがわからないため理解できない

平成24年度情報セキュリティ月間の基本的な考え方③

3 課題の抽出、ターゲットと具体的目標の設定

課題の抽出

- カテゴリ分けしたターゲットごとに抽出する

ターゲット

- セキュリティに不安を感じるインターネット利用者
セキュリティに対する必要性の高低と認識の高低によりいくつかに分類

具体的目標

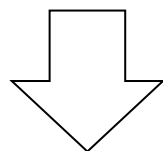
- カテゴリ分けしたターゲットごとに設定する

		必要性	
		高	低
認識(実施)	高	OK	指導者としての啓発
	低	教育	いわゆる啓発

4 課題解決方策の検討

課題解決方策の検討の観点

- ポジティブなメッセージで啓発する
- このくらいはやってほしいという具体的なポイントを設定し、重点的に啓発する
- 技術的対策を確実に実施してもらうことと、意識を高めてもらうことの両方を啓発する
- なかなかリーチできないと思える層も切り捨てずに、シンプルなメッセージを用いていろいろなリーチの仕方を試みる
- 情報セキュリティ事故もほかの事故と同じように、どれだけ対策しても事故をゼロにはできないが、対策によりリスクは確実に下げられることを訴える



具体的な取組の検討に当たっては、これらを十分に踏まえたものとする

平成24年度情報セキュリティ月間の開催時期

第5回会合において、平成24年度は2月に情報セキュリティ月間を開催し、10月には国際連携情報セキュリティ意識啓発週間を開催する方向で検討を進めてはどうかという指摘があった

	メリット	デメリット
月間を2月に据え置き、10月に国際連携週間を新設する	<ul style="list-style-type: none">・情報セキュリティ月間の認知度を維持できる。・2月の協力を前提に準備を進めている企業等へのインパクトが少なく済む。	<ul style="list-style-type: none">・予算等のリソースが分散し、それぞれの期間中の活動が小規模になる可能性がある。
月間を10月に移す	<ul style="list-style-type: none">・10月を意識啓発期間としている米国、ASEANとの連携が可能となり、月間中の活動がより充実する。・入試対応や春休みにより2月の活動が難しい大学関係者の協力が得やすくなる。	<ul style="list-style-type: none">・過去から積み上げてきた情報セキュリティ月間の認知度が失われる。・年間計画の関係等で活動できない企業等が生じて充実したものとならない可能性がある。・情報化月間との重複により、情報セキュリティ月間の存在感が薄くなる。